

STREAM

交通安全教育の潮流

熊本県での高校生交通安全教育活動 連載:第3回 高校生の安全意識を高めるための様々なアプローチ

目的を明確にした 自転車の実技教育

前回に引き続き、ホンダが熊本県内で展開している高校生交通安全教育、そして、高校生による高齢者へ反射材の普及を促進するための取組みを紹介する。

熊本県立多良木高等学校（熊本県多良木町）では生徒の約半数が通学に自転車を利用している。9月10日、1〜3年生296名を対象にした自転車の交通安全教室を実施した。同校では毎年春に1回、指導していたが、今年はホンダと協力して秋にも開催することにしたという。この日の交通安全教室は学年ごとに約1時間ずつ行われ、生徒全員が自転車に乗って、運転する際に起こりうる危険を安全に体験した。

まず1つ目は急制動。全力で自転車をこぎ、目標となるパイロンを通過したら両手でブレーキをかけて止まる。危険を発見しても、自転車はすぐには止まれないことを理解してもらう。2つ目は、片

多良木高校では生徒全員が自転車に乗って課題に取り組んだ



ドライバーからは見えない死角についてインストラクターが説明

1回目は両手で運転。2回目は片手運転で、パイロンを避けるのがいかに難しいかを体験

班長の高津史乃さん（2年生）は、「ドライバーが遠くからでも反射した光が認識できることを念頭にデザインしました。また、クルマのライトはロービームの状態が多いということか

このような熊本県内の高校での交通安全教育を展開している熊本普及ブロックは、熊本市立必由館高等学校（熊本県熊本市）と協働で新たな取組みを行った。高齢者への反射材の普及を促進するために、服飾デザインコースを持つ同校に

反射材を利用した衣服 を高校生自らが製作

手運転の危険性。最初は両手で、その後片手運転でも走行して、片手ではバランスが取りにくくなって危険であることを実感してもらおう。本田技研工業（株）安全運転普及本部熊本普及ブロックのインストラクターと、同校の先生方は生徒を観察しながらアドバイスを行った。最後に、クルマの死角（3年生はクルマの内輪差）について。実際のクルマを使って死角の範囲を示し、ドライバーから自転車はどう見えているのかを伝えた。同校生徒指導主事の甲斐郁文教諭は「ホンダのプログラムは、単に自転車に乗って練習するのではなく、生徒に何を理解してもらおうかが明確になっており、それに対応した実技が組み合わされている点が良いかと思えます。様々な体験を通じて、ブレーキ操作が不十分であるなど、自転車を乗りこなせていない生徒が少なくないことが把握でき、私たちが今後の指導への参考になりました」と話す。

生徒に社会とつながる ことを意識してもらう

デザインと製作において中心となったニューウェーブ研究班では様々な実験により、反射材は硬く、すべりやすいため、反射材同士では縫いにくいことなどを確かめた。その結果、綿などの天然素材に反射材をデザインとして縫い付けたスカートやズボンを製作することにした。



西村奏美さん（前列左から2番目）、高津史乃さん（前列左から3番目）と、ニューウェーブ研究班の皆さん

反射材を活用して高齢者が着用しやすい衣服の製作を今年3月に依頼したのである。同校服飾デザインコース主任の荒木雅子教諭は「生徒たちが交通安全という視点を学ぶことで、自分のやっていることが社会の中でどう役立つのか体験することができると考え、依頼をお受けしました」と振り返る。衣服の製作を担当したのは、同コースの服飾デザイン部である。熊本普及ブロックでは反射材（繊維素材）を提供するとともに、熊本県内の交通事故の状況などを生徒たちに伝えた。服飾デザイン部部長の西村奏美さん（3年生）は「私たちが学んでいるファッションの知識や技術を高齢者の交通事故防止に活かしたいと考え、取り組みました。反射材は、これまで扱ったことがない素材です。そこで、素材の特性を知るところから始めました」と話す。

ら、スカートやズボンの裾の近くにも反射材を縫い付けるという工夫もしています。こうした衣服が普及して、高齢者の方を交通事故から守られればうれしい」と語る。

こうして半年をかけた、反射材を利用した衣服が完成。9月29日、同校文化祭のファッションショーで作品として発表した。高齢者役のモデルは同校の卒業生が務めた。実際に作品を着用した卒業生は「反射材のタスキをもらいますが、やはり身に付けるのは抵抗があります。衣服にデザインとして組み込んであるものなら、私たちが着用しやすい」と評価する。

「生徒はともすると、学力だけで何事も解決すると思いがちですが、勉強して得た力を様々な形で表現し、社会とつながらないう意味がありません。今回の経験を通して、それを実感できたと思います」と、荒木教諭はファッションショーを終えた生徒たちを迎えた。

文化祭のファッションショーで発表された作品（一部）



ファッションショーでは「おしゃれに身を守ろう作戦」というテーマで、取組みの主旨を全校生徒や一般の来場者にプレゼンテーションした

NEWS REVIEW

2 ●トワイライト・オン キャンペーン 暗くなったら、見られるためのライトオン!



一般社団法人日本自動車工業会（以下、自工会）は今年度、茨城県内における交通事故死者数低減のため、会員各社および関連団体等と連携をとりながら、交通安全教育やキャンペーンを展開。その一環として、IBS茨城放送とともに、秋から年末にかけて増加する歩行中の高齢者の死亡事故を減らすため、ドライバーに夕方早めのヘッドライト点灯を呼びかける「トワイライト・オンキャンペーン」を実施している。

は、茨城県交通安全協会が主催する「茨城路セーフティロードの日」街頭キャンペーンに自工会も協力。当日は水戸市の吉沢交差点前で、「トワイライト・オン」を呼びかけるのぼり旗を掲示し、茨城県交通安全協会の職員らが信号待ちをしているクルマのドライバーにキャンペーンのステッカーや反射材付バッグなどの啓発品を配布した。

茨城県交通安全協会の生田目専務理事は「夕方早めのヘッドライト点灯を浸透させることが、交通事故防止につながると考えています。今回は自工会の皆さんにも協力していただいたので、より多くのドライバーへの啓発ができました」と活動の成果を語った。

「トワイライト・オンキャンペーン」は、年末まで茨城県内各地の街頭やイベントなどで啓発活動が行われる予定だ。



3 ●第43回全国白バイ安全運転競技大会 全国の白バイ隊員が高度な安全運転技術を競う



10月6日、7日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）にて第43回全国白バイ安全運転競技大会（主催：警察庁）が開催された。

この大会は、全国の白バイ隊員の安全運転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、昭和44年より実施されている。今年は、46都道府県警察及び皇宮警察から、女性隊員38名を含む183名の選手が参加し、バランス走行操縦競技、トライアル走行操縦競技、不整地

走行操縦（モトクロス）競技、傾斜走行操縦（スラローム）競技の計4種目によって熱戦が繰り広げられた。

主な結果は以下の通り。

- 団体競技の部
 - （第1部・9都府県警察）優勝/警視庁、第2位/埼玉県、第3位/愛知県
 - （第2部・37道府県警察等）優勝/三重県、第2位/熊本県、第3位/広島県
- 個人競技の部
 - （男性の部）優勝/玉井伸政（神奈川県）
 - （女性の部）優勝/高橋幸江（警視庁）

